

第8回 原体験サマースクール 活動記録

(平成16年度子どもゆめ基金助成事業)



参加者

下条 正隆・和田 勇歩・木寺 貴子・木寺 貴子・池田 翼・宮下
航大・檀之上 由希・上野 大輝・橋口 さとし・佐久間 雄大・高
橋 勇矢

平成 16 年度の原体験サマースクールには 11 人の参加がありました。天候に恵まれスタッフも子どもたちと一緒に楽しみました。最終日に一言感想を書いて貰いました。

下条 正隆 (佐世保市 小五年)

サマースクールに初めてきました。最初はきんちょうしてちょっとおどろいた所もありました。だけど「チュルゲ」という変わったあだなの子と友達になりました。

1 日目は、川へ遊びに行く途中にスズメバチのすがあって、みんなおどろいていました。そしてだいぶいって川に着きました。川でみんなはいろいろな場所に行って泳ぎました。

帰って 1 班がりょうりをして、その日のごはんはハンバーグで、とてもおいしかったです。夜はごえもんぶるに入ってとてもきもちよかったです。竹ざいくもして竹笛を作って、みんなねるじゅんびをしていっしょにねました。2 日目は朝早くから国見山に登って足がくたくたの人いました。ちょうじょうに着いてみんなはもうくたくたにつかれています。

そしておりていって「あかがしの家」に着いて、川につりにいくじゅんびをしてつりに行きました。でもぜんぜんつれなかつたのでふかい所に行って遊びました。遊んでいたとき、山口さんからなげられて顔を岩にぶつけてたんこぶができました。そして「あかがしの家」にもどって昼ごはんを食べました。

3 日目はさわ登りをして、おやつにピザも作りました。夜はさんぼをしているいろいろな生きものをみました。4 日目はまた川に泳ぎに行きました。さいごに集合しゃしんをとって帰りました。<

和田 勇歩(佐世保市 小四年)

サマースクールで楽しかった事は、友達ができて、まささんと、いっけいと、みやと、大輝と、とても仲よくなりました。その中で、まささんと、大きという人と、1 日目に遊びました。

1 日目は、川で遊びました。まささんと、大きと、水をかけたりしました。その中に、山口さんという大人の人もまじってました。その 1 日目からぼくのアダナが「チュルゲ」になりました。

2 日目は、国見の山登りと、つりと、魚を料理しました。朝 5 時 30 分に起きて、6 時 10 分に国見の山に登りました。そして、ちょうじょうについたときには、11 時ぐらいになっていました。ちょうじょうについて、ぼくは「やっとついたんだ。」と思いました。

そして、あかがしの家について、いっときたってから釣りをしに行きました。釣りに行くときちゅうに、スズメバチの巣がありました。そして、釣りをしに行くところについてつりをしました。ぼくは、1 番でっかいさかなをつりました。あかがしの家でその魚を料理しました。それをまささんに、あげました。

3 日目はさわ登りと、火おこしと、夜のさんぼをしました。さわのぼりは 3 つのなんかんがありました。1 つ目は、とちゅうですべりました。2 つめは、さい後にすべりました。さい後にやったのはスムーズにいきました。あかがしで火おこしをしました。2 回目で火がつきました。かん単でした。夜のさんぼはこわかったです。山をとって、今にもおぼけがでそうでした。

4 日目、しゅうりょうの日でした。さいごに、しゅうごう写真をとりました。とっても楽しい思い出ができました。

木寺 貴子(佐世保市 小六年)

私が一番楽しかったのは、沢登りです。沢登りは大きな石や小さいじゃりもあって、歩きにくかったけど、滝が 3 つあって、水に当たりながら上りました。水につかって寒かったけど、楽しかったです。

2 日目の魚つりは 1 匹もつれずに終わったのでいやだったけど、4 日目の魚つりは 9 匹もつれて嬉しかったです。2 日目の夜にあった針金細工はこまをつくって賞品をもらいました。昨年あったシュロの葉を使ったあみ物は、今年無かったのでやりたかったなあと思いました。でも、楽しい思い出が多かったので、来年はスタッフとしてきたいなあと思います。

富岡 秋太(佐世保市 小五年)

一番楽しみにしていたのはたき登りです。去年たきにはうまく登れなかったからです。でも登ったらやっぱりむずかしかったです。特に三番目のたきのさいしょのところを登るのにくろうしました。

二番目が国見山に登ることで一番にのぼれたのがうれしかったです。
三番目にはご飯がしてくれるのが心配でした。ーぱんがつくったハンバーグが三日間の中で一番おいしかったです。

四番目がよるのさんぼです。去年クワガタをつかまえたからです。
かなしかったのは、はりがねざいくのこま大会でどべになったことです。
次の日には、こまをつくってよくまわりました。一番のきろくの人をタイムを超えました。うれしかったです。また来年も来たいです。
* どべ：久しぶりに聞いた言葉でした。まだ、使われているんですね。「ビリ」という意味です。

池田 翼(佐世保市 小四年)
サマースクールでいちばんたのしかったのは、くにみ山のぼりにいったことです。
その中でおいしい水をのめて良かったです。
5時におきて、6時30分にあかがしの家をしゅっぱつして、1時についたのもものすごくつかれました。つぎにたのしかったのは、さわのぼりがたのしかったです。さわをのぼっていると中で水をせきとめるのもたのしかったです。

ピザをやいて食べてたのしかったです。竹ざいくでふえやはしもつくりました。
はりがねざいくでこまを作ってたのしかったです。
火をおこすのはたのしかったけど、さらをふいたりあらったりするのはあまりたのしくありませんでした。つりにもいっていっぱいつれてよかったです。

宮下 航大(佐世保市 小四年)
さいしょ川に行って楽しかったです。なぜかと言うと、山口さんと遊んでなげられたり、みずをかけあったり、石からとびこんだりしておもしろかったです。
次の日は国見山のぼりに行きました。5時半に起きなきやいけなかったからたいへんだったです。ついたら一回か二回きたことがあったから、ちょっとがっくりしました。帰ったらごはんがおいしかったです。友だちがいっぱいできてうれしかったです。
ちゅるげってあだ名のひとがいたからおもしろかったです。

三日目はさわのぼりをしました。たきがあったからびっくりしました。
富岡君が、かえるをえさにした魚つりをしてたからおもしろかったです。
夜のさんぼに行けなかったからいやだったです。でも、11時までにはりがねざいくをしていたら、よくまわるこまができたのでうれしかったです。夜のさんぼに行けなくてのこったら、おにぎりが食べれてよかったです。

四日目はそうじをしました。ふるにかえるを入れたら、外に出たから大へんだったです。さいご川にいったのしかったです。山口さんにしずめられけどおもしろかったです。また行きたいです。

檀之上 由希(佐世保市 小四年)
このサマースクールで一番楽しかったことは、沢登りです。
とくにたきをのぼるのがとても楽しかったです。でも、さいごのたきが一番むずかしく、もうとちゅうからなきそうでした。あと、川遊びをしたり、国見山にのぼったのもとても楽しかったです。あかがしの家の中でたのしかったことは、みんなでトランプをしたことです。
大ふごうやスピードをしました。

二日目からなぜかシャンプーと歯ブラシがなくなりとても悲しかったです。でもさいごの日に先生がみつけてくれたので見つけて良かったなーと思いました。
川遊びではつりなどをしました。私は、一ぴきもつれなかったけど、ほかのひとがたくさんつれるところを見て、おもしろかったです。

山登りは、いろんな生き物を見れて、とてもいんしょうにのこりました。
とちゅうで山の水を飲みました。あかがしの水と山の水、どっちがおいしいかなーと思いました。
3ぱく4日のサマースクールはとても長かったけどいつもの(毎月の)たんけんたいよりはおも

しろかったです。またこんなものがあればさんかしたいなーと思いました。

上野 大輝(佐世保市 小4年)

まず1日目は、じこしょうかいとか、ゲームをしました。次に昼食を食べました。そして川に遊びに行きました。川に着いたら泳ぎました。

川からあかがしの家に帰ってきたら、ばんご飯づくりをしました。

1日目のばんご飯は1班で、ハンバーグを作りました。自分で作ったハンバーグはおいしかったです。1日目の夜にはじめてごえもんぶろはいりました。次に竹ぶえをつくりました。次にねるじゅんびしました。

2日目は、5時半におきて国見山に行くじゅんびをしました。6時に出発しました。行くときに、こんちゅうや植物を見つけながら国見山に行きました。かえってきたら昼食を食べました。次に川につりや泳ぎにいて魚つりをしました。そして、1びき魚をつりました。かえってきたら、ばんご飯は、2はんが作りました。2日目は、おふろたきををしました。そして、ふろたきが1ぱんのとうぱんでした。ふろたきが楽しかったです。ふろにはいったあとにはりがねざいくをしてこまを作りました。3日目は沢登りをして楽しかった。

橋口 さとし(時津町 小五年)

このサマースクールで、1番に楽しかったのは、さわ登りです。それは、たくさんの水にふれられたし、山登りのプロの人が手つだってくれて高いたきをロープを使って上ったことがスリルがあって楽しかったです。2番目に楽しかったのはまきわりです。なたで、けっこう小さい木を木のかぶにとんとうちつけて、なたが、木に入ってきたらおもいきり木のかぶにうって切るのがおもしろかったです。3番目に楽しかったのは、国見山に登ったことです。行くと中にいろいろな虫を見つけました。中学生の人が、めずらしいカエルを何びきかつかまえました。すごいと思いました。

ちょう上についたときは、とてもつかれたけど、とうとう登ったのでさいこうでした。

2日目の夜に、ぼくたち2はんは、カレーをつくりました。とってもおいしかったです。2日目と4日目は、川あそびをしたり、魚つりをしました。2日目には魚はつれなかったけど、4日目にはやっと1びきつれました。さいこうでした。来年も来たいです。

佐久間 雄大(豊中市 小五年)

ぼくはサマースクールに行きました。ぼくは、今年で2回目なので、サマースクールのことはだいたい分かっていました。1日目にみんなでトランプで大富ごうをしたりして遊びました。そして、まきわりをしました。そして、たくさんわってから、竹ではしを作りました。はし作りが終わってから、川遊びをしました。おくの深い所までいって、山口さんと戦ったりしました。帰ってから弁当をたべておいしかったです。



アイスブレイキング



箸を作る



薪割り



ハンバーグを焼く



国見山を目指す



国見山アカガシ原生林にて



マユタテアカネを指に止める



釣れた魚（タカハヤ）



魚釣り



魚をさばく



朝食作り



滝を登る



夜のくつろぎ



最後

「第8回原体験サマースクールメモから」

今年は18名の募集に対し12名の応募があったが、1名が都合で辞退し、11名の参加となった。今年から子供たちのリーダーとして中学生スタッフ2名を採用。例年佐世保市からの参加者が主であるが、今回は時津町から1名、大阪から1名、北海道から1名が参加。北海道・大阪からの参加は保護者が佐世保出身である。受付を済ませた後に、参加者と保護者に「あかがしの家」の紹介をする。続いて、宮下さんの指導で1時間ほどのゲームを行い、参加者の気持ちをほぐす。これで初対面の子供達も知り合いになる。ニックネームをつけ、お互いに覚えやすいよう工夫をしていた。この後、生活上の注意。食事当番や風呂の当番を決める。

この間に他のスタッフは、4日間を過ごす庭にテント(タープ)を張る。テントの下に置くテーブルと椅子の運搬、設置はこども達が行う。これらの準備が終わると昼食。持参したお弁当をとる。30分ほど自由時間とする。こども達はすぐにトランプゲームの「大富豪」を始める。中には本を読む子もいた。1時過ぎによいよ活動開始。まず、4日間使う五右衛門風呂とかまど用の薪割りを行う。生まれて初めての薪割である。1度覚えると面白くなって、いつまでも止めない子もいる。この間に、中学生スタッフと大人のスタッフで2日間の食材を買出しに行く。

薪割が終わると、スクール中に自分が使う箸をモウソウ竹で作る。予め割っておいた竹を、膝の上に雑巾を置き、竹ひごを作る要領でナイフの刃を竹に当て、竹の方を引っ張って細く削る。初参加のこども達にはこれも初めてである。刃を立て過ぎると竹に食い込む、その加減が難しい。菜箸のように大きなものを作っている子もいた。最後に自分の印を付けて終わり。

1時間半ほどは川遊びに行けそうである。川はあかがしの家から歩いて10分ほど。今年は雨が少なく、水量は昨年の半分ほどしかない。堰堤の下の水溜りも浅い。こども達はスタッフの山口さんに水の中に投げこまれたり、水かけをして遊んでいた。夕食作り。今日の食事当番は1班で、おかずはハンバーグである。ご飯は竈で炊く。スタッフの中川さんが釜の蓋を開け、水がないと言うので、聞いてみると水の量を間違えて第一関節までしか入れてないことが分かった。急ぎょ水を加えて炊き直す。発見が早かったのでもんとか食べられるご飯にはなった。子供たちは宮下さんの指導の下、野菜を刻みひき肉と混ぜる。混ぜたところで、ハンバーグの形を作る。子供たちがふざけているいろいろな形のものを作っていた。

山口さんが汗だくになりながら、庭で大きな鉄なべを使って焼く。こども達がハンバーグに色々な形を付けていたものはバラバラになってしまった。ハンバーグはあの形でないとうまく焼けないことが分かったようだ。

2班は並行して風呂を沸かす。五右衛門風呂沸かしは子供の好きな役割の一つで、喧嘩してまでも暑い焚き口の前に座りたがる。そしてなにより好きなのが火吹き竹を吹くこと。どんどん燃えている火に向かって吹くので、火吹き竹にも火が付くありさま。沸かしすぎないように注意をしたが、やはり沸かしすぎる。ガスのように火の調節ができないことをなかなか理解できない。食事の片付けも1班。なんとか、第一回の食事も無事終了。

交代で入浴する間、近藤さんの竹細工(ウグイス笛作り)を行う。乾いた竹を使ったので硬くて

子供達には難しかったようだ。それでも、音ができると嬉しいのだろう。近藤さんに「ボンドが乾くまで 1 時間は吹いてはダメ」と注意されたにも関わらず、待ちきれずに吹いて「外れました」と言ってくる子が何人かいた。明日の起床が早いので、10:00 には消灯して寝かせた。意外とすんなり寝てくれた。女の子が多いところは行かない。スタッフも今日の問題点と明日の予定を確認し、明日に備えて早寝である。

8月6日(金) 国見山登山。5:30 起床。6:10 に出発。

登山といっても単に登るのでなく、生き物の観察をしながら登るので、実にゆっくりとしたペースである。

まずは朝食場所の檜巻林道の入り口を目指して登る。あかがしの家の側から見える国見山を指して目的地を伝え、「・・・えっ～あがん遠かと・・・」。

途中、木陰で休んでいるコシボソヤンマ、大きなヤマナメクジやミョウガの花を見る。また、このころになると木陰ではマユタネアカネがよく見られる。このトンボは脅さない限り、指先に止まってくれる。

それぞれ指を突き出す。何人かの指先には止まったようだ。

檜巻林道の入り口で、運んで貰ったパンと牛乳の朝食。この付近で例年、お腹が痛いと言う子が出てくるが、今年はそういう子もおらずに、皆元気である。

ここからは目指す国見山が美しい三角形の山に見える。

明るい林縁にはアオモジやキブシが多い。アオモジの果実を採って子供たちに配る。「レモンのおいのする・・・」と、こちらが言う前に感じてくれた。ブドウの房のようなキブシの果実などを見る。

しばらくは開けた場所を歩くが、すぐに照葉樹林の中に入る。照葉樹林の中は暗くて、林道脇からは水が染み出している場所が多い。ここにはサワガニが沢山いる。

こども達は「サワガニ」といって直ぐに捕まえていた。オスとメスの区別を教える。

高橋君はトビナナフシの羽を吹いて広げていた。またエダナナフシも捕まえていた。アカガシの樹液に来ているカブトムシがいた。早速山口さんが木を蹴る。

ポトリと落ちてきた。小さなメスとオスであった。去年も参加した富岡君はリュックにしっかりと虫かごを入れてきていた。小さかったせいもあり、他に欲しがる子もなく、すんなり富岡君の虫かごに納まった。

大きなミズキの幹に分蜂したミツバチがいた。皆初めて見るのだろう。「近づいても大丈夫」と言っても、遠くから恐る恐る見ていた。最初の水場に着く。ここで水分補給と 10 分ほど休憩。水筒に入れてきた麦茶を、水に詰め替える。この間に近藤さんがメダケでプープー笛を作る。こども達は何度も「あとどんくらい」と聞く。ここからは頂上まで 1 時間半位である。

林道には今年生まれのヒキガエルが多く、ピョコ・ピョコとはねる。こども達には簡単に捕まえることが出来る。他にはジャンプ力の強いヤマアカガエルがいた。中学生スタッフの富岡君が必死で捕まえたヤマアカガエルの大きいこと。これだけ大きいのは滅多に見られない。例年はヤマアカガエルよりタゴガエルが多いのだが今年は 1 匹も捕まえられなかった。不思議にヤマアカガエルの大きい個体が目に付いた。

山頂北側のアカガシの原生林に到着。ここで、林内に入りアカガシの大木やこれに着生しているヤマンバノカミノケを見る。ごわごわとした黒い髪の毛のように見える。「ヤマンバが通ったときに木にくっついた・・・」。「ヤマンバは白髪じゃなかねと・・・」という子がいた。去年の参加者がすかさず「キノコじゃん」と種を明かす。よく探すと傘が見つかる。いつものことながら、手をつないで大木の大きさがどれくらいなものか実感してもらおう。幹周りはこども 3 人の手をつないだ大きさだった。木から離れて 3 人で手をつないでもらい、つないだ輪の中にこども達やスタッフに入ってもらおう。なんと 11 人が中に入れるのだ。樹齢 300 年くらいと思われる。森林の話をして、一気に山頂を目指す。

到着が 11 時頃。遠くに見える烏帽子岳・愛宕山・佐世保市街地・相浦方面を教える。15 分程休憩したのちに下山。下山中は観察を省く。途中 2 箇所の水場で休息。あかがしの家に到着した

のは 12:30 頃。直ぐに食事をし、しばらく休憩の後魚釣りに出かけることにする。伊藤さんがすでに釣り竿を作ってくれていた。「きつか〜」と言っていたこども達は、「食事が済んだら釣りに行く」「ヤッター」ととたんに元気になる。スタッフが作ってくれたチラシ寿司を味わう。2 時頃から、それぞれに竿を担いで川へ下る。

思い思いのポイントに行き釣りを始める。殆どの子供が川で魚を釣るのは初めてである。最初は釣り糸を川辺の木に引っ掛けたり、隣の人と絡ませたりしていたが、1 時間もすると、糸や竿の扱いがうまくなった。釣りに飽きた子供は、堰堤の下で山口さんを相手に遊んでいた。上手な者は大きい物を 4 ~ 5 匹、皆 1 匹は釣ったようだ。今日の大物を釣ったチュルゲは「おいらんが一番大きかった」と自慢していた（帰りには釣竿持ち帰っていた）。

釣れたのは殆どがタカハヤ。伊藤さんの指導でさばき、これをニンニクと塩コショウでこんがり焼く。夜は 2 班の作るカレーライス。ご飯はかまどで炊く。タマネギを切るのに目が痛いとゴーグルをはめる子もいた。子供たちに聞くと、甘口しか食べれない子と中カラがよい子がいたので結局 2 種を作った。風呂沸かしは 1 班。昨日の 2 班と殆ど同じ状況である。今日は沸かしすぎないようにしっかりと指導する。

食事の片付けが済みしだい子供たちを風呂に入れる。入浴が終わったところで、伊藤さんの針金教室。クリップや駒を作る。長く回る駒を作った者は伊藤さんが作った三輪車やヘリコプターなどの賞品が貰える。試合になると皆緊張。緊張しすぎてテーブルから落とすもの、全く回らない者もいる。チャンピオンは 27 秒回った。

失敗して回らなかった富岡君はしょげていた。今日も登山で疲れているので、10 時消灯とした。さすがに、直ぐに話声がしなくなった。

8月7日(土)

きょうの朝食づくりは希望者にしてもらうことにした。味噌汁とスクランブルエッグ。4 人が手を上げ手伝ってくれた。今日から自分が使う食器はめいめいで準備し片付けてもらうようにした。食事のスピードに個人差が大きいので、食器洗いは思ったよりスムーズだった。今日の活動のメインは沢登りである。9:30 に沢登りの服装（長袖・長ズボン・靴）で沢の入り口に向かう。沢の入り口で、山岳会の方々の指導で、靴に滑り止めのより紐を巻く。雨が少ないので沢の水は今年の半分以下。山岳会のリーダー古川さんが、子供たちを上手に水の中に導く。

沢登りは濡れないと面白くない。ここには小さい滝が 3 つある。最初の滝は落差 3 m ほどのなだらかな滝（なめ滝）。ここで古川さんより滝の登り方を教わり、ザイルなしで登る。次は落差 5 m ほどの急斜面の滝。ここでは全てザイルをつけて登る。3 つめは最も難しい直立の滝で落差 5 m ほど。昨年は水が多かったのが今年以上に子供たちは緊張していた。ここも、ザイルを使い登る。取材に来ていたライフさせぼの女性記者も、実感しないとよい記事は書けないと、滝登りに挑戦。皆、ずぶ濡れになり寒い。沢から上がると温かいアスファルト道路に寝転んで体を温めていた。このころ、雨がぱらついてきたので、これ以上体を冷やさないよう、急いで車にのせ、あかがしの家に戻る。

あかがしの家に着くころには雨はすっかり上がったが、庭は水をまいたように濡れていた。聞くとすごい夕立が降ったそうである。子供たちに着替えをさせ、早速昼食のヤキソバを作る。庭で大きい鉄なべを使ってのワイルドなヤキソバ、山岳会のスタッフが「おいしかと？」とその味を疑っていたが。いざ食べ始めると「美味しい」と御代りをしていた。子供たちも、沢登りの緊張から解きほぐされたせいか、食欲旺盛で全てなくなった。昼のおやつは石釜で焼くピザ。昼食が終わると直ぐに生地作りを始めた。スタッフの近藤さんは、炎天下で汗だくになりながら石釜を暖める。コウダイは近藤さんの助手で薪を作っていた。

1 時間ほど石釜を暖めたところで、ピザを石釜に入れて焼く。一枚が 10 分ほどかかる。焼けるたびに、部屋の中でやっていたトランプ（大富豪）を止めて食べに来る。焼くのに時間がかかるので、だらだらと長いおやつになった。毎年この時間帯はアカメガアシワでつつんだ柏餅を作

る。今年は趣向を変えてみたが、ピザは焼くのに時間がかかり、大勢のときには不向きである。夕食は、豚汁・鳥の唐揚げ・ご飯。スタッフで準備する。五右衛門風呂は沸かしたい子供に、好きなように沸かさせた。途中で火が消えていたが、結局ちゃんと沸かすことが出来た。「沸かした4人が1番風呂の権利！！」といったら「ヤッター」の返事が帰ってきた。

夕食後、暗くなるのを待って夜の生き物観察。夜は明かりに照らされる物以外に目が行かないので、観察に集中できる利点がある。もちろん夜にしか見られない生き物もいる。あかがしの家を基点に川に下る竹林を通過して、道路を環状に巡るコースである。竹林の中ではトゲナナフシやマダラカマドウマ。開けた畑地では巣を張っているオニグモや珍しいトリノフンダマシ(クモ)、ススキに止まって「ジー」とうるさく単調に鳴くカヤキリ、林縁の低木ではレース編みのように優雅なカラスウリの花などが見られた。

電気を消して歩くと、藪の中で青白い小さな光を放つオオマドオタルの幼虫がいた。目が慣れるとあちこちで光っているのが分かる。捕まえて見ると「なんやコイ・・・」と言う声が聞こえる。シャクトリ虫のような感じを受ける。多分子供の予想と全く違った形の生き物だったのだろう。満天の星もきれい。「あいが夏の大三角形バイ」という声がする。北斗七星。サソリザもよく見えた。子供たちは意外と星座に興味があるようだ。

世知原は街灯が無いので、夜の闇を感じる事が出来る。暗い中でも、電気を消すとうっすらと道路が見える。眼が暗闇に慣れることも子供達は実感した。怖かったと言う子供もいたが、色々な生き物が見られた。戻ると風呂の順番を決め、最後の夜だから、「11:30に消灯」と伝える。『させば自然ガイドブック』を読んでいた下条君に「面白か?」と聞くと「ウン」。この本は「後で参加者全員に上げるヨ」と言うので「今だめ?」。一緒に読んでいた三人には早く渡した。下条君が「こがん本の欲しかったっチャン」と、とても喜んでくれた。編集した者としてこれほど嬉しいことは無かった。

三人は布団を敷いて寝転んで読んでいたが、10時頃には寝入っていた。疲れが出たのと、ここでの生活に慣れたのだろう。皆11時頃には布団に転がっていた。私たちスタッフも明日の打ち合わせをして、早めに床についた。

8月8日(日)最終日

昨夜早く寝たせいか、子供たちも6:30頃には起きだした。最後の朝食は目玉焼きと味噌汁。手を上げた子供たち4人が朝食を作る。目玉焼きの大きいのは「手伝ったものの権利!!!」早速4人でじゃんけんをし大きいものを確保していた。大きいといっても知れたものだが・・・。気持ちはよく分かる。

片付けのあとは、自分の荷物をまとめさせ、外のテーブルに移動させる。案の定、持ち主不明のものが沢山出てくる。サイズが同じくらいなので名前が書いてないと本人にも分からないのである。調べても分からないものは迎えに来た保護者に見てもらおうことにする。

午前中2時間は最後の川遊びである。水着を着て釣り竿を持ち、伊藤さんを先頭に川へ向かう。郷愁をさそう風景である。伊藤さんと大島さんは釣りの相手。山口さんは水遊びの相手である。釣りは2箇所、泳ぎは1箇所と分かれるので、それぞれに監督のスタッフが必要。野外で怪我をさせないように子供たちの思うままに遊ばせるのは大変である。

帰ると昼食の準備。大釜を使い庭でチャンポンを作る。なかなかの出来だった。運良く食事が終わるころに、バケツをひっくり返したような雨が30分ほど続く。軒下で土砂降りの雨を見ながら、デザートのスイカをほおぼる。以前は、帰宅してから感想文を送ってもらっていたが、昨年からは帰り際に30分ほど感想文を書いてもらっている。この時間内に沢山のことを書く子もいるし、全く書けない子もいる。感想文を書き終わったところに、保護者の方々が子供たちを迎えに。集合写真を撮り3泊4日の原体験サマースクールの幕を閉じる。

多くのスタッフに支えられ、今年も一人の病気・怪我もなく、子供たちに楽しい思い出を持ち帰ってもらった。スタッフの皆さんご苦労さまでした。